

令和7年度 地域連携推進会議録

日 時：令和8年2月14日（土）

10:00～12:00

場 所：矢部公民館および各ホーム

1. サポートホームしんしろ／第2しんしろについて（10:00～11:00）

（1）グループホーム事業およびサポートホームの概要説明

- ・法人の概要、サポートホームの概要、各ホームの特色や設備整備状況の紹介
- ・サポートホーム開設から約20年のエピソード等の概要

（2）サポートホームの活動報告

- ・「親元を離れて暮らす」「休日の暮らし」「外出、外食、余暇の過ごし方」「地域の活動への参加」「防災活動」「職員の研修」などテーマごとに画像を中心にスクリーンで紹介。
- ・ご理解とご協力への感謝、苦情やご意見をいただいた内容の共有。

（3）意見交換・質疑応答

□利用者代表より

- ・野球観戦等を目的に出かけた東京旅行の思い出
- ・ホームでの食事や他利用者との交流の様子

□家族代表より

- ・親亡き後、現在も住み慣れた新城で暮らせていることの感謝。兄弟姉妹も暮らしており、近くで暮らせているからこそその日常的な訪問がしやすい有難さ。
- ・定期的に日用品を届けるなどの訪問がしやすい。足を運ぶたびに、安心して暮らせている顔を見ることができている。
- ・職員ともとても顔の見える関係が築けて安心している。

□地域代表より

- ・「グループホームができる」と初めて聞いた時は戸惑ったが、実際に近所で暮らしてきて、心配なこともない。自宅周辺はもちろん通院した病院で顔を合わせるなど、お互いに声をかけられる。
- ・建物管理のためしばしば立ち寄ると「大家さん！こんにちは！」と大きな声で声をかけてくれる。一方で「隣家から『大きな声が聞こえて不安』という時期もあった。その対応に遅延があったこともあったが、対応後の現在は近所とも穏やかに過ごすことが出来ている。職員と直接LINE等で連絡が取り合えるのはとても有難い。今後も必要時にタイムリーに相談できるのは安心。

□行政より

- ・私が福祉課配属となったのは約20年前。まだまだ障害福祉の社会資源はほとんどなく、もちろんグループホームもなかった。「親亡き後」の相談には、市外の入所施設を案内するしかなかった。今日会議に参加し、現在までの変化や社会資源が増加してきたこと、ご家族とも行き交える同じ地域で暮らせていることが安心につながっていることを再確認できた。また、複数地区にあるグループホームが、それぞれに地域とのつながりもあることは大変有難い。

□新城市基幹相談支援センターより

- ・本日はグループホームでの生活の様子を聞いた。ひと昔前は施設入所支援が生活を支える中心であり、地域の方と行き交う今の様子とはまた異なる環境であった。「大きな施設で大勢が暮らす」良さもあるが、グループホームのように「家単位で少人数が暮らす」環境であるからこそ、地域とつながりが持ちやすいことを再認識できた。今後も、ご本人はもちろんご家族も安心して暮らせ、地域の方とも互いに不安のない生活ができる関係を継続できることを願います。

2. 各グループホームの見学（11:00～12:00）

□3班に分かれて関係地区ごとにグループホームを見学

	地区別	参加者	担当
①	矢部、平井地区	家族代表1名 地区代表1名	岡 裕子（サービス管理責任者）
②	石田、市場台地区	家族代表1名 市役所福祉課1名 基幹相談支援センター1名	松原宏昌（サービス管理責任者）
③	長篠地区	地区代表1名	渡邊竜夫（管理者）